

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針や理念を職員の目の届くところに掲示し、意識付けを行う。又、会議等の機会を利用して勉強会を行い理念を共有できる様働きかけている	玄関、スタッフルームに理念や方を針掲示し意識付けを行っている。会議やミーティング時確認しながら実践につなげている。	パンフレットにも理念を掲げ広く広報行っており、職員が深く理解し共有ができるよう、さらなる意識付の工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議へ自治委員や 民生委員に参加頂き、地域の祭りには招待を受け、出かけたり、施設で花火大会鑑賞やふれあい餅つき大会を企画し参加や協力を依頼している	自治会にも加入し地区の祭りにも参加している。特に子供たちとの交流を楽しみにしており、施設の行事や花火大会には地区住民、子供たちを招待し交流を図っている。写真や記録で確認。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症講座や介護教室をしたいという希望や計画はあるが実践に至っていないのが実情です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政 自治委員 民生委員 包括支援センター職員に参加頂き 運営状況報告 意見交換を行っている。最近はお家族の参加も増えてきた。	運営推進会議を定期的で開催しており、利用状況や運営状況を説明している。出された意見や助言は検討しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や報告 都度の相談を通して行政との連携を持つように心がけている	市の担当者とは、制度や利用者状況、職員の雇用等、事業所の実情について相談しながらサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの場で身体拘束について学習 拘束防止についての理解を深める様心掛けている。玄関の施錠はプッシュ式で行っているが入居者が外に出ようとするときは思いを受け止め対応 又、可能な限り付き添い散歩へ同行する等柔軟に対応するよう心掛けている	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会を行うことで身体拘束への理解を深め、利用者の意向に寄り添いながら、拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを利用して学習会を行い理解を深める、又 朝夕の申し送り時に対応困難な入居者に対して情報共有したり、入浴時など全身観察をし皮下出血や 傷の確認を行い考えられる状況や原因を考え、対応を検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け職員へは文章で回覧 ソ必要があれば支援したいと思っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に時間をかけて説明。又重要事項説明書にも記載している事項についての疑問点や不安について尋ね、納得のいく説明を行うよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や 面会時にご家族との会話での要望や意見をノートに書き留め職員へ伝達 改善を図る。又運営推進会議でも意見や要望を報告 助言をもらっている 意見箱を設置しているが投函はない	利用者や家族からの意見や要望を書き留め、会議やミーティング時、職員と話し合いながら改善を図っている。内容については運営推進会議でも報告し助言をもらっている。	家族から出された意見や要望については、取り組みの結果や内容を報告することで家族との信頼にもつながると思います。期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己評価表の活用 自身を振り返り次の目標へとつなげる。管理者や主任と面談 意見や要望を伝えられる場を設けている	人事考課を実施し、職員の意見を聞く機会を設け、業務の改善に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修を利用して職員のスキルアップをはかる様心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内を職員に伝え、任意参加も含め研修参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設実習を取り入れ交流していたが、中断している状況。是非又環境を整え実施していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時契約時に 本人の想い ご家族の要望 等を伺い 申し送りや ノートに書き留め情報を共有し ケアプランに反映衣し ケアの統一を図り 信頼関係を築く様心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に時間をかけて説明。家族の要望や不安を伺い不安の解消や軽減に努めている。又面会時に施設での生活状況や気付いた事など情報提供し何でも話しやすい関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に生活歴や既往歴 生活習慣 意向 困っている事等を伺い初期プランを作成 変化があればその都度変更 柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の有する能力を見きわめ 家事活動への参加等を促し 感謝を伝え。共に助け合っ暮らす者同士としての関係を築く様心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会 本人の外出 外泊も自由柔軟に対応している。又、さまざまな行事は家族参加型で行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時本人の馴染みの家具や思い出の品を可能な限り持ち込んで頂く。外出外泊 面会も自由に柔軟に対応 家族の希望があれば本人の居室でソファ等を使用し宿泊も可能。実際に週1回宿泊している家族もいる。	利用者の希望を聞きながら馴染みの場所や、行ってみたい場所へ行けるよう支援している。家族や友人が訪れた際には、ゆったりとした時間が過ごせる様に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者荘子の関係は日々職員が把握し調整座席の配置や 家事の依頼の組み合わせ等に配慮又 利用者同士のトラブルも双方の想いを受け止め調整を図り良好な関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族にも 花火鑑賞や餅つき大会などのご案内をし継続的に関係を保てるよう心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である利用者本位を念頭に置き 御家族や本人の希望や意向伺い出来るだけ介護に反映させる様努力している。常に本当に利用者の為で有るか否かを判断基準にしている	日頃の対話や活動の中、また家族からの情報で利用者の思いや意向を把握するよう努めている。できる限り希望に近い形で実現できるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人に生活歴 家族歴 趣味 好む事 好まない事等詳しく伺い 記録し情報を共有し介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録シートに日々の記録を行い朝夕の申し送り時に口頭での申し送り確認を行い 成功例 失敗例なども具体的に行う事により現状の把握と次への介護に活かす努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に本人や家族の意向を聴くと共に利用者の担当を中心に個々人の課題とケアの有り方をサービス担当者会議で話し合い それぞれの意見をもとにケアプランを作成している	6ヶ月に1回プランの見直しを行っている。家族からの情報や心身の状況の変化を把握し、職員で意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の身体状況や生活の状況を1週間藤して見れる記録シートに記入し情報を共有 ケアプランの作成や変更につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに応えられる様その都度協議し、柔軟に対応 又 その日の気分や体調によって外出や散歩などにも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会 ボランティアさんに施設訪問などで協力して頂いているが今後はもっともっと輪を広げて行きたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望を優先し かかりつけ医を決定。専門医〔整形 外科等〕の受診の必要があれば家族と相談し医療機関を選択	本人、家族の希望を聞きながら、かかりつけ医を決めている。利用者の状態に合わせ職員が同行し詳しく状況説明して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中で変化や気づき等些細な事でも職場内の看護師へ報告相談し看護師は主治医に連絡 相談し指示を受ける。看護師は細かな事柄も日頃から主治医へ相談し 円滑な人間関係を築ける様心掛けています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族へ連絡し、可能な限り看護師が付き添い正確な情報T利強をするよう心掛けています。又入院中も病院へ可能な限り訪問し病院関係者との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて本人や家族の意向を確認し、そのような状況になったら都度、話し合い本人や家族の想いを大切にケアプランに反映し職員間で情報を共有し支援に努めている	入居時や必要時に応じて本人、家族の意向を確認している。重度化や終末期のあり方について家族、協力医、職員の連携ができており、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングで都度研修し実践につなげる努力をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施。自治会にも協力依頼しメールにて連絡し協力が得られるようお願いしている。今後は共同で防災訓練をしたいと検討中	年2回、消防署の指導のもと、防災訓練を実施している。全職員が利用者の避難できる方法を身につけるようにしている。今後へ向け自治会にも協力依頼を行っており良い返事を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは指示命令語は使用せず丁寧語 依頼系での声掛けを基本におこなっている。 又介護は無理強いせず 本人の想いを受け 止め尊重した対応を行う。又入浴や排泄に 関してもプライバシーに配慮した介助を行う	利用者一人ひとりにあった声かけに努め、人 格を尊重し、プライドを傷つける事のないよう に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	待つ事 本人のペースを尊重する事を基本 に受容的態度で接する事を基本に支援にあ たっている。自己決定できる様な声掛けや 対応を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを基本に利用者本位で考えられ るケアを提供できる様 入居者や家族の 意向を尊重した支援が展開できる様心掛け ている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	男性の髭剃り 女性の整髪 洋服のコー ディネートへの配慮。日常着と寝巻との更衣 を毎日行い汚染時には速やかに更衣。毎日 同じものにならない様収納の工夫を行う理 美容に関しても2カ月に1度本人の希望に 沿ったヘアスタイルにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	本人の咀嚼や嚥下の状態を見きわめ食事 形態を検討。又出来るだけ自力摂取出来る 様な声掛けと食器の検討と工夫をおこなっ ている。盛り付けや片付けも出来る方には 手伝って頂き一緒に行っている	職員と一緒に盛りつけたり、片付けやテー ブル拭き等、出来ることを行ってもらっている。 食器の工夫をしたり、献立に季節の野菜等を 多く取り入れている。また、やせうまやぜんざ い等、楽しみながらおやつ作りにも取り組ん でいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を時系列で記録 し把握嗜好や形態も考慮し必要量の摂取の 確保に努めている。どうしても困難な場合栄 養補助食品も考慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後自立の方には声掛けし口腔ケアを 促し最後に確認、介助が必要な方には介助 を行い洩れのない様記録シートにてチェック している。義歯は毎夕洗浄剤につけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体能力見きわめ、できるだけトイレでの排泄を心掛けている。尿意 便意を大切に速やかに対応。個々人の排泄記録をもとに排泄用品の検討やトイレ誘導時間の検討をおこなっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで自立した排泄ができるように支援している。職員にも日中と夜間の排泄用品の使い分けやコスト意識を持つよう指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を細かに記入し、便秘の原因を理解し 水分摂取や食物繊維の摂取 乳酸菌摂取の検討 運動や腹部マッサージ 下剤の服用等で対応		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の入浴介助を基本に介助しているがその日の体調や気分を考慮し無理強いせず柔軟に対応、汚染時は速やかに対応。認知に起因すると思われる理由で応じられない場合は 声掛けや人を変える等の工夫で対応している	基本的に週2～3回の入浴を実施している。利用者の希望や体調、気分等に配慮し、意向に沿った入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝緒時間に関しては本人の本人の生活習慣や希望を尊重し柔軟に対応している。夜間も騒音や照明に配慮し巡視 又日中も本人の状態や希望に応じて休息がとれる様 支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	区する説明書をファイルし必要に応じて職員が確認できる場所においている。各利用者の内服に関しては用法や用量に関して理解するよう努めている。異常や変化に気づいたら看護師に報告相談		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来る事を確認しながら、本人の出来る事特異な事を探り、力を活かした役割や楽しみごとができる様支援、また外出や散歩にも本人の想いを尊重し柔軟に対応		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物など 日常業務の中で状況を見ながら対応、また年に何回かはおやつや弁当を持って出かける計画を立て御家族へも案内している、地域へのお祭りにも出かけている	施設の敷地内散歩や近くの神社、公園等、その日の状況に応じ、外出支援を行っている。年に数回、弁当を作り家族と一緒に出かける事もある。季節によりドライブや花見等で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ない方が多いので 好きなものや欲しいものは家族へ依頼。年に1度は買い物に出かける機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族への電話は対応。手紙に関しては年賀状を作成し出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度 温度 換気には常に気を配っている。又、毎月壁面飾りを季節感あるものとし、利用者と職員と一緒に飾り付けている	共同空間は、こまめな温度、湿度の管理がされている。季節感が味わえる様に折り紙で花を折って飾ったり、ソファでゆっくりくつろいだりと、それぞれが思い思いに過ごせる様に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居室で思い思いに過ごせる様職員が支援 又、食卓の席の位置の位置にも人間関係や本人の想いを考慮しながら行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談し 馴染みの家具や品物を持ち込んだり 家族の写真を飾る等 本人にとって居心地の良い環境作りを心掛けている。。	利用者、家族の希望に沿って使い慣れたタンス、鏡等持参している。また、使い慣れた毛布等を持ち込んだり、安心して過ごせる様に家具の配置にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー 手摺設置 トイレは解り易く表示 など移動 排泄入浴等 出来る事 出来ない事等見きわめ安全面に配慮しつつ 残存機能を活かして出来るだけ自立した生活ができる様心掛けている。		